

平成20年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「下栗いも」の保全と増産のためのウィルスフリー化事業
事業主体 (連絡先)	下栗里の会 野牧武 野牧知利 TEL0260-36-2562
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,206,828 円 (うち支援金: 999,000 円)

事業内容



県など諸機関の力強いご支援を頂き、「下栗いも」を使った料理は県選択無形文化財に、昨年は伝統野菜に認定された。しかしウィルスのため収穫量が減少しており、「下栗いも」の保全と増産のためにウィルスフリー化に取り組んできたところである。信大の研究により、種いもが一斉に更新されれば、効果はかなり持続することが分かった。そのため下栗とその周辺の地区の種いもを全てまかなう量を生産すると共にウィルス検定を実施。これらを通じて質量ともに優れたジャガイモを増産することが可能となった。またこれまで単一系統と思われていた下栗いもも、複数の系統があることが解った。

(活動写真)

【多数の会員による収穫の様子】

自己評価 (事業実施率) 【A】

事業効果

...無菌の下栗いもを 1,318kg を収穫し、下栗地区内に配布。本年夏には現生産量 13 t の 1.6 倍まで収量の増が見込まれる。売価についても東京・名古屋等への販路を拡大し、最上品の選別出荷で 500 円/kg をめざす。余ったいもについては、地区内での販売、焼酎原料や交流施設での食材として利用する。これらの活動が認められ第 68 回中日新聞農業賞特別賞を受賞する。

【目標・ねらい】

- 無菌下栗いもの生産・配布
- 販路開拓
-
-

自己評価 (目標達成率) 【A】

今後の取り組み

現在の収穫量より1.6倍の増産が見込まれ、地元での郷土料理・芋焼酎の活用の外に首都圏への出荷に取り組む。高値の販売に努める事により農家への励みと共に、所得向上へと結びつけていきたい。そのために、安全でより高品質な種芋の採種方法を普及することが大事かと思う。また定期的なウィルス鑑定も行っていかねばならない。それらを財源の面で保証するためにも、しっかりした販売体制を確立する必要がある。これまでは全面的に信州大学の協力で種いもを提供して頂いたが、ゆくゆくは茎頂点培養を伝授してもらって、自前で生産することも考えねばならない。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。